

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表	2021年3月31日公表	事業所名	重症心身障がいサポートセンターひばり
----	--------------	------	--------------------

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○				
	2	職員の配置数は適切である	○			重症心身障がい児、医療的ケア児、肢体不自由児対象のため個性が高く、児童指導員、機能訓練士を加配。看護師2名を常駐している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			重症児・医療的ケア児・肢体不自由児・聴覚障害児など、児童の状態に合わせて過ごす場所の環境調整を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			トイレ、手洗い場、活動スペースについて、児童の状態に合わせて安全に過ごせるように改善を行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○				
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		第三者による外部評価を導入し、質の向上に努めたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			新人研修、現任研修、業務改善発表、事例検討発表のほか、社内動画チャンネルなどで研修を行っている。	
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			KIDS-S-M社会生活能力検査、障がい特性アセスメントシートなど、児童の状態に応じて活用している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			アセスメントツールは社内で統一している。児童の状態に応じたものをその中から選んで活用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○				
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			個別支援計画をもとに、月ごとの目標を定めて見直ししながら取り組んでいる。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			週1回のクラス会議で検討を行っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			実施時間帯の変更や個別療育時間の増加など、活動プログラムの見直しを図った。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	○			児童の状態に応じて個別活動を積極的に取り入れている。就学前児童や幼稚園への移行を目指す児童などについても目標設定して個別療育を実施している。	

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			毎日の朝礼にて、各児童の目標を確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			支援終了後は翌日の活動の打ち合わせなどを実施している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			タブレット端末によるタイムリーな記録ができています。そのほかに1週間の活動予定と記録を行う用紙（週案）を活用し、日々の様子を記載している。またその内容をスタッフ間で共有に努めている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			週1回のクラス会議で、個別支援計画立案の際にスタッフみなで意見を出しモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			管理者だけでなく、児童の担当スタッフも参加し、細かな日々の療育状況について話し合いを行っている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係機関と連携した支援を行っている	○			保護者面談では、保健師や相談支援専門員にも参加の呼びかけを行い、就学に向けた具体的な課題を共有している	
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			常に主治医、担当保健師、療育センター、訪問看護師などと情報共有しながら支援を行っている。	
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			地域の基幹病院やかかりつけ医、嘱託医との連携を密に行い、緊急時に備えている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			目標のすり合わせや情報共有のため、積極的に連携を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			就学に向けて早い時期から保健師との連携を開始して、課題を共有し就学準備を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			手術後の児童への訓練内容や摂食の練習などについて、療育センターとの連携を密にして取り組んでいる。就学に向けた支援は保健センターとの連携を密に行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			昨年より、近隣のこども園との交流を計画していたが、コロナ感染症流行により延期となっている。	今後も引き続きこども園や、併用している幼稚園などとの交流を企画していく。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			田川地区・直鞍地区の協議会に参加している。	地域課題については、事業所側から協議会で検討してもらうよう声をあげ、解決を図る取り組みを行う。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時や保護者面談の際に、共通理解ができるよう努めている。	就労中の保護者との情報共有は不足しがちであるため、意思疎通の機会を増やすよう努める。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○			児童の状況に応じて、社内の自閉症スペクトラム支援士が保護者に面談やアドバイスを行っている。	

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		2020年度は保護者同士の交流や日ごろの児童への療育を知ってもらうために保護者会を計画していたが、コロナ感染症流行にて中止。	今後は開催方法を工夫しながら実施していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者からの相談・苦情などがあった場合は、社内ですぐに原因を考え解決に向け調整している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会社HPやクラス便り（毎月）にて活動報告や情報提供を行っている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		年に2回の祭事、運動会などを催し、地域住民にも参加していただけるよう広報している。（今年度はコロナ感染症流行にて開催なし）。		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		緊急時対応（コロナ感染者発生/災害時など）についてはマニュアルを作成。保護者には緊急時連絡先の再確認を実施中。	保護者に向けた周知が不足しているため、今後も周知に努める。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		AED使用による救命や防災訓練などを実施している。2020年は消防署職員に直接レクチャーを受けた。発電機稼働による対応の準備は毎月実施している	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		利用開始時に医療機関と情報共有している。医療的ケアの必要な児童については医師の指示を頂いている	
満足度	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		会社全体で権利擁護研修を実施し、社員全員が研修を受けている。意思決定支援について理解を深めるために、全事業所で事例検討を行っている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		やむを得ない状況を生まないための取り組みとして意思決定支援に会社全体で取り組んでおり、対象者の意思表示をくみ取り聞かれるようアセスメントに努めている。万が一の場合として、やむを得ない場合とはどのような場合でどのような手続きを進捗化を毎年社内の権利擁護研修で確認している。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

事業所名	重症心身障がいサポートセンターひばり	保護者等数／児童数	13／13
		回答数 [割合 %]	12 [92%]

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	9			3	あまり見たことがありません／コロナの影響で中に入れないので把握できていないです。	保護者面談の際に療育環境のご紹介を行う／クラス便りなどに療育の様子がわかるようご紹介をしているので今後も継続する。
	2 職員の配置数や専門性は適切である	10			2		
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10			2		重症児・医療ケア児・肢体不自由児・7聴覚障害児など、児童の状態に合わせて過ごす場所の環境調整を行っている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	1		2		トイレ、手洗い場、活動スペースについて、子どもさんの状態に合わせて安全に過ごせるように改善を行っている。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	12					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10			2		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11			1		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	10			2		実施時間帯の変更や個別療育時間の増加など、活動プログラムの見直しを図った。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	1	1	7		昨年より、近隣のこども園との交流を計画していたが、コロナ感染症流行により延期となっている。
保護者 への 説明 等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	10	2				
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	11			1		
	12 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニングiv等）が行われている	5	2		5		子供さんの状況に応じて、社内の自閉症スペクトラム支援士が保護者に面談やアドバイスを行っています。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	12					
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	8	3	1			個別支援計画立案の時期や、新年度を迎える前などに保護者面談を実施している。担当の保健師や相談支援専門員にも声掛けし、就学の際の課題整理などを行っている。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	2	1	2	7		2020年度は計画していたが、コロナ感染症流行にて中止。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	8	1		3		
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	11			1		
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	9	1		2		会社HPやクラス便り（毎月）にて活動報告や情報提供を行っている。
19 個人情報の取扱いに十分注意されている	11	1					

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常 時等 の 対 応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	5		1	6		緊急時対応（コロナ感染者発生／災害時など）についてはマニュアルを作成。保護者には緊急時連絡先の再確認を実施中。緊急時の動きについては発生時の具体的な流れの周知に努める。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	2			10		AED使用による救命や防災訓練などを実施している。2020年は消防署職員に直接レクチャーを受けた。発電機稼働による対応の準備は毎月実施している。
満 足 度	22	子どもは通所を楽しみにしている	10			2	とてもうれしそうに行っています。	
	23	事業所の支援に満足している	12				スタッフの皆さんも感じよくてありがたいです。	

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。